



# 週報

■4月は、『母子の健康月間』

第1520回例会 2018年4月19日 Vol.32/No.38

## ■本日の例会／第1521回 平成30年4月26日(木)

- 会長・幹事報告
- 各委員会報告・各委員長
- 会員卓話・甲斐裕隆 会員、竹内幹也 会員

## 【出席率状況報告】

- ・会員数……………51名
- ・出席者……………31名
- ・欠席者……………20名
- ・出席率……………60.78%
- ・4/5の修正出席率…82.35%

## ■会長挨拶



田中 寿 会長

今日は外部の方の講話という事で、綾町でオーガニックのワインを作っておられる。

香月さんをお迎えしております。

ワインと言うとなかなか難しいという思いがあつてうんちくを語りづらいものの一つと言うか代表的なものだと言えるのではないのでしょうか？

ずいぶん前になるのですが、会社員時代にツアーでアメリカのナパバレーにある、ワイナリーを訪ねたことがあります。確かケンゾーエステートと言う名前のワイナリーでしたがちょっとしたリゾートのような雰囲気醸したワイナリーでした。そこでこのカリフォルニアワインを作り始めたのは日本人だという事を知っていらっしゃいますか？と訊かれて驚いた記憶があります。

1800年代の終わり位に渡英したのをきっかけにアメリカにわたってきた、薩摩藩士、長澤鼎と言う人物が、入信していたある教団が運営していたワイナリーを買い取って始めたのが、ナパバレーで本格的にワインづくりが始まったきっかけだったと言われていました。

最近では日本のスーパーなどでも良く見かける長澤ワインですが、1000円位の手ごろな価格帯のワインです。カリフォルニアの人達は非常にこのワインを高く評価していると言われていました。1986年だったと記憶していますが当時のレーガン大統領が来日し、彼はカリフォルニア州知事をしていた事もあってか、この長澤ワインの話を持ち出したことから、広く日本人に知られるようになったと言われていました。ナパバレーでは非常にあがめられている日本人の長澤鼎、日本人が誇れる一人だと思います。

オーストラリアの米作りも大正時代に渡った日本人が始めたものですし、オセアニアの和牛の生産も

日本人が先駆となって始めたもの、最近では日本人のいない国はないくらいあらゆる所に日本人が住み着いて様々な貢献をしている事に、誇らしい思いを感じています。

## ■幹事報告



生駒俊明 幹事

クラブエンブレムの紹介：公式事業の際使うエンブレムを事務局で用意しています。まだ購入されていない方、必要な方は事務局までお申し込みください。

「どんぐり1000年の杜をつくる会」からお礼と、参加された方の集合写真が届いております。

会員の推薦のお知らせ；外山政典氏。推薦者は黒木雄一会員となっております

## ■委員会報告 国際奉仕委員会

篠原英介 委員長



・5月16日～19日台湾龍山ロータリークラブ訪問は参加者が20名になりました。ありがとうございます。

・5月27日(日) 地区研修・協議会について  
(締切りの訂正) 4月25日までにご返事をお願いします。なお、委員長さんが欠席の場合は副委員長の代理をお願いします。

## ■ゲスト卓話 香月ワインズ

代表 香月克公 様



ワインを造るまでのお話し  
自分探しの旅へニュージーランドに25歳のとき、自分が何をしたいのか解らなくてはがゆい思いをしていたころ、ワーキングホリデーの話を聞いて自分探しの旅へ出ることにした。

人口より羊のほうが多い国、ニュージーランド。日本と同じ島国ということもあり、山や川、湖がゆたかで、魚介類も豊富にとれる。

真夏の2月、北島にある人口100万人の都市オークランドに到着した。そこからいろいろな所をヒッチハイクで廻ることにする。ある時、ぼくと同じように旅をしている若いアメリカ人に会い、南島には果物の畑がたくさんあり年中を通して仕事があると聞きすぐに南へと向かう。

三日かけて何とかたどり着いた南島最初の町は、りんご、キウイフルーツやビールの原料となるホップの大産地だ。幸運なことになりんごの収穫期にかさなり、着いて早々りんご摘みの仕事をもらい畑に住み込みで働き始める。

そこには世界中から集まった若者たちが同じように働きながら旅をしていた。こうした外国人季節労働者は人口の少ないニュージーランドにとって、年の一時期だけ多くの人手を必要とする畑にとって重要な労働力だそうだ。そこで4カ月間働くことになる。

#### ブドウ園での作業と出会い

りんごの収穫も終わり次の仕事を探していると、ネルソンの隣町であるブレナムという所でワイン用のブドウの剪定の仕事があることを聞き早速行ってみる。

ブレナムはニュージーランド最大のワイン生産地で、国のワイン総生産の半分以上がここで造られている。

そこでお世話になったのが地元の小さなワイナリー。ブドウのことについて何も知りませんでした。こまめに手ほどきを頂き、ブドウ栽培、ワイン造りについて学ぶことになる。

#### ワインの魅力に引き込まれた

春が来て新芽がすくすくと伸び始め、花が咲き夏になるとブドウがたわわに生り始めた。そして秋、収穫の時がついにやってきた。

ある日収穫の最中にワイナリーから醸造家が来て、ワイナリーで人手が足りないから手伝うように言われた。お酒がほとんど飲めなかった私だったが、この経験が私のキャリアを決めるにあたり大きく影響することになる。

ブドウを砕き、ジュースを絞り、澱を取り、上澄みの澱抜きをしたジュースへ酵母菌を加え発酵させる。

こうした醸造の基本をゆっくりとではあるが学んでいた。

その後、地元のワイン醸造の専門学校で、本格的な醸造を学び、卒業後は、ニュージーランドのワイナリーに再就職。その間、ドイツ、オーストラリアなどで研修を行い伝統のワイン造りを学ばせてもらった。

2009年に帰国を決め、2017年7月に念願のワイナリーが完成。これまでに学んだいろいろな世界をワインに表現すべく、翌8月に収穫、ワインの仕込みを開始した。

将来は、次の世代の若者たちの育成も踏まえ、いろいろな国との交流活動をしたいと思っている。

#### 出席委員会報告

甲斐裕隆 委員長

##### ◆4/5メイクアップ者名 (敬称略)

小川正宏、黒木陽子、秦 喜八郎、渡邊 勝  
篠原英介、田中 寿、小村賢一郎、

#### ロータリー情報

ポール・ハリス語録 14

人生は、単なるはがね、車、鉄道でなく、それ以上のものです。また事業以上のものです。事業は目的でなく、目的のための手段です。会話や文書の最も優しい言葉は、

株式、債権、利益や配当などではありません。会話や文書の最も優しい言葉は、母、父、妻、息子、娘、友人などです。これらは、人生の不滅のものの代表です。

(My Road to Rotary)

発行 / 宮崎中央ロータリークラブ

●事務局 〒880-0804 宮崎市宮田町10-25 宮田町ビル TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-0288  
●例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30~13:30)  
会長/田中 寿 副会長/山川 力 幹事/生駒俊明